

促成ナスでのスワルバンカーの使い方(徳島県)

スワルバンカーの導入時期

徳島県立農林水産総合技術支援センター

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
播種	育苗	定植	収穫	収穫	収穫	収穫	収穫	収穫	収穫	収穫	栽培終了



スワルバンカー設置

育苗期設置のポイント

- ・ ナスの施設栽培で問題となっているミナミキイロアザミウマやチャノホコリダニは育苗期間中から発生する。
- ・ このため、**バンカーシート**を使って**スワルスキーカブリダニ**を苗に放飼し、育苗期から定着させる(図1: I)。
- ・ その結果、農薬の使用を最小限に控えても、ミナミキイロアザミウマの発生を抑えた苗(図1: II)が生産でき、本圃に定植後も初期発生を抑えられる(図1: III)。

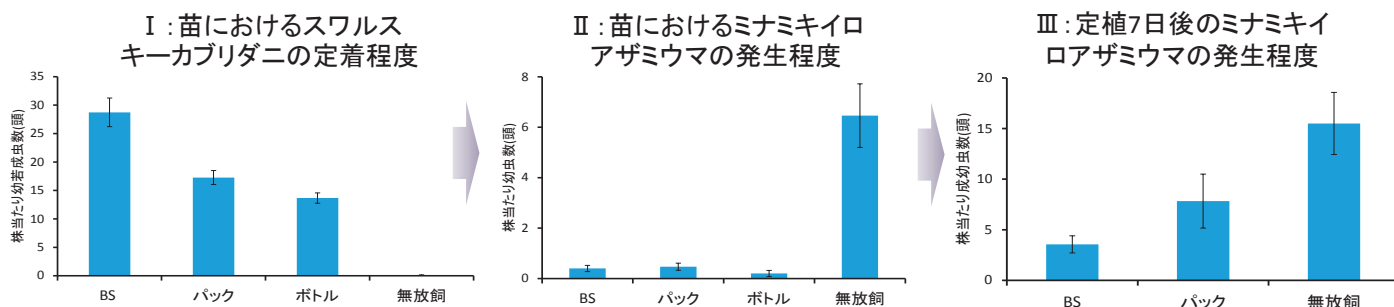


図1 バンカーシート利用によるスワルスキーカブリダニの定着とミナミキイロアザミウマの発生程度

注1) BS:バンカーシート内に吸水性ポリマーを投入し、9日後にパック剤を装着。その後苗に設置。

注2) BSとパックは、9月3日に1資材/12株を設置、ボトルは同量を葉上に放飼。

- ・ ミナミキイロアザミウマのみならず、チャノホコリダニにも高い効果がある(図2)。

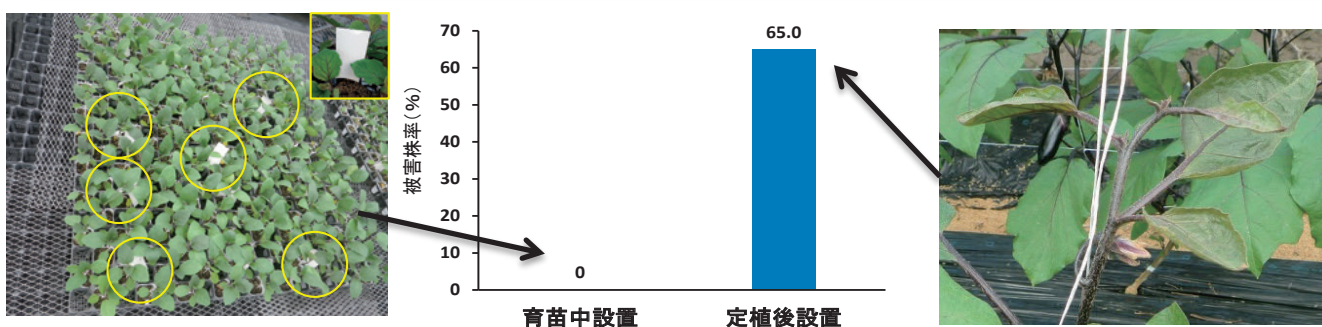


図2 育苗中のバンカーシート設置(写真左)によるチャノホコリダニ被害(写真右)の抑制効果

実施の手順

●育苗用施設内において(生産者から防除を委託された育苗専門者が実施)

- 1) 定植1~2週間前の苗にバンカーシートを利用して、スワルスキーカブリダニを放飼する(シート内にパック剤を装着する2~3日前に吸水性ポリマーを投入すると、設置後のカブリダニの放出が早くなる)。
- 2) バンカーシートの下部に竹串、あるいは割り箸等を突き刺して(図6)、ポット苗に設置する(図7)。放飼量は1資材(パック入りバンカーシート) / 10~12株とする。
- 3) 灌水は通常どおりとする。
- 4) 苗を生産現場に搬送する前に、**ガンマ花粉(Nutrimite™)**を処理する。
- 5) 搬送用ダンボール箱の中には、苗とともに使用した資材(パック入りバンカーシート)も静置し、同送する。

●本圃において(生産者が実施)

- 6) カブリダニの付いた苗をそのまま定植する。また、上記で利用した資材(パック入りバンカーシート)は株元に設置する(図8)。
- 7) なお、カブリダニの付いていない通常の苗を購入した場合は、納品後、2~3日間は上記1)を実施した後に定植する。

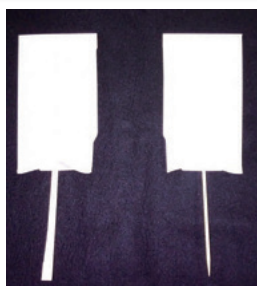


図6 竹串等を突き刺して利用



図7 苗に設置した様子



図8 定植後、株元に設置

使用上の留意点

- ✓ アブラムシ類、ハダニ類とハスモンヨトウ等のチョウ目害虫には効果がないので、以下の薬剤を選択し処理する。

VSアブラムシ類

定植時: ベリマークSC(灌注)、プリロツソ粒剤、スタークル(アルバリン)粒剤等

定植後: ウララDF、チェス顆粒水和剤

VSハダニ類

定植後: スターマイトフロアブル、カネマイトフロアブル、ダニサラバフロアブル

VSハスモンヨトウ


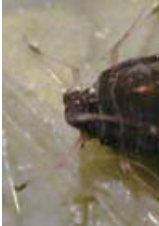

定植時: プレバソフロアブル5(灌注)

定植後: プレバソフロアブル5、フェニックス顆粒水和剤、プレオフロアブル等

- ✓ 11月以降には、低温によりスワルスキーカブリダニ密度は低下するので、あらかじめタバコカスミカメを併用するための準備を行う。

※ 本技術は、キュウリやピーマン等にも応用可能。

スワルスキーカブリダニの利用を基幹とした促成ナスのIPMプログラム案

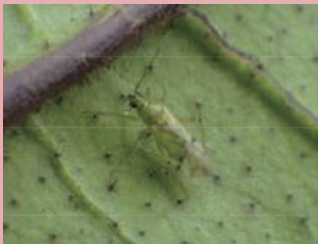
	8月	8～9月		10月
	育苗	定植		
ミナミキイロアザミウマ	スワルスキーカブリダニをバンカーシートを利用して放飼 	ベリマークSCの灌注 または、プリロツソ粒剤の株元散布(育苗期後半～定植当日処理)	ゴマを利用してタバコ	
コナジラミ類				
チャノホコリダニ			チャノホコリダニの被害 ・スターマイトフロア ・カネマイトフロアブ ・アプロード水和剤	
アブラムシ類		ベリマークSCの灌注または、プリロツソ粒剤の株元散布(育苗期後半～定植当日処理)		
ハダニ類				
ハスモンヨトウ オオタバコガ			ハスモンヨトウ等を確認 ・プレバゾンフロアブ ・フェニックス顆粒水 ・プレオフロアブル	
主要病害			以下の薬剤で予防的に うどんこ病:ダコニ すすかび病:ダコニ 灰色かび病:ダコニ	

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
-----	-----	----	----	----	----	----	----

収穫

加温開始

カスミカメを放飼(ゴマまわし)



症状を確認した場合には、以下の薬剤で防除を実施

ブル	2,000倍	1回まで
ル	1,000倍～1,500倍	1回まで
	1,000倍	3回まで



アブラムシ類密度が増加した場合には、以下の薬剤で防除を実施

・チェス水和剤	5,000倍	3回まで
・ウララDF	2,000倍～4,000倍	3回まで
・コルト顆粒水和剤	4,000倍	3回まで



ハダニ類密度が増加した場合には、以下の薬剤で防除を実施

・スターマイトフロアブル	2,000倍	1回まで
・カネマイトフロアブル	1,000倍～1,500倍	1回まで
・ダニサラバフロアブル	1,000倍	2回まで

した場合には、以下の薬剤で防除を実施

ル5	2,000倍	2回まで
和剤	2,000倍～4,000倍	3回まで
	1,000倍	4回まで



防除を実施

ール1000、ベルコートフロアブル、ガッテン乳剤、パンチョTF顆粒水和剤等

ール1000、ベルコートフロアブル、アフェットフロアブル、カンタスドライフロアブル等

ール1000、セイビアーフロアブル、ゲッター水和剤、フルピカフロアブル等